

# しろね図書館だより

発行 新潟市立白根図書館  
平成19年4月1日

No. 83

## ❀ 今月の展示架テーマ 「春のおでかけ」

梅が咲き、桜が咲き、チューリップが咲き、この季節たくさんのお花が咲き誇ります。春、長い冬を乗り越えた花たちだけがここぞとばかりに咲いていきます。命の息吹を感じずにはいられません。道端の小さな小さな花たち、大輪の花を咲かせる樹木たち。花の大きさに関係なくきれいに咲いてくれます。そして、見る人の心を和ませ、豊かにしてくれます。








さて、今年の10月には新潟市に新しく中央図書館(愛称:ほんぽーと)がオープンし、しろね図書館も南区図書館の拠点としてさらに発展していきます。

本も花と同じで、読む人の人生を豊かにしてくれますよ!

平成19年度の新潟市立白根図書館のメンバーです。  
どうぞよろしくお願ひします!

本は心のともだち



 館長 坂井 治一	 主査(司書) 内山 香	 副主査 清水 隆	 司書 中川 沙穂里
 司書 大野 直子	 司書 小林 友治	 嘱託(司書) 田中 久美子	 嘱託(司書) 小林 友子

### 3月の

来館者 ----- 16,476 人  
貸出冊数 --- 15,771 冊  
予約件数 --- 280 件

ブックバス利用者 --- 224 人  
ブックバス貸出冊数 --- 522 冊

### リクエスト情報 (しばらくお待ち下さい)

- 1位 陰日向に咲く (7名)
- 2位 風が強く吹いている  
ラストイニング (2名)
- 3位 ハリー・ポッターと謎のプリンス  
他 (1名)

## 子どもたちといっしょに

「ぼくのくれよん」(講談社)

長新太 おはなしえ

表紙に描かれたくれよん。いったい誰のかと思ったら、ぞうのくれよんなんだって。全部で七色。あか、きいろ、だいだい、ちゃいろ、みどり、あお、くろ。

ぞうがこのくれよんを使って、あおでびゅーびゅーって描くと… 見えるは池と間違えて飛び込むとしたり、きいろで描くと、きりんやがばやしまうまたちは巨大なばなに間違えて食べようとしたりで大騒ぎ。しまいにはぞうはらいおんに怒られるしまつ。でも、… 絵を描くってぞうや子どもでなくても楽しいものですよ。

もし、本当にぞうが使うくらい大きなくれよんがあったらどんな感じなんだろうか。長新太さんのユーモラスであたたかい絵本です。

くれよんは子どもにとって遊びの必需品。絵が好きの子、色をはじめて覚えた子はとても好きになってくれると思います。

## 第78回読書会

「となり町戦争」三崎亜記者 (集英社)

4月15日(日) 午後2:00~ 白根学習館ルーム2

こんな静かな戦争があるのだろうか。目に見えない、爆弾の音すら聞こえない。しかし、日に日に戦死者は増えていく。北原修路はある日、町役場から特別偵察業務の任命通知を受け取る。この戦争は、いつ、どのようにして終わるのか。



みなさん、4月からブックバスの停車場所・停車時間が変わります。

### 4月の行事 ブックバス

4 水 絵本のじかん 3:00~		18 水 絵本のじかん 3:00~	味オ小 13:10~13:50 大鷲小 14:30~15:45
7 土 おはなし会 3:00~		19 木	新館小 12:35~13:20 兼賀小 13:35~14:35
10 火	根岸小 13:10~13:50	20 金	小林小 10:10~10:40 臼井小 12:55~13:35
11 水 絵本のじかん 3:00~	白根北中 13:10~14:00 大通小 14:15~15:35	21 土 おはなし会 3:00~	
12 木	白根中 12:55~13:35 彦根地C 14:00~14:40 全港小 15:00~15:45	24 火	根岸小 13:10~13:50
13 金	白根小 10:10~10:40 臼井中 12:55~13:35	25 水 絵本のじかん 3:00~	白根北中 13:10~14:00 大通小 14:15~15:35
14 土 おはなしが例会10:00~ おはなし会 3:00~		26 木	白根中 12:55~13:35 彦根地C 14:00~14:40 左衛門小 15:00~15:45
15 日 第78回読書会2:00~		27 金	白根小 10:10~10:40 臼井中 12:55~13:35
17 火	月潟中 13:00~13:50	28 土 おはなしが例会10:00~ おはなし会 3:00~	

☆☆☆☆図書館員がおすすめするこの1冊☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「狐笛のかなた」 上橋菜穂子作／理論社 (ティーンズ 913.6ウ)

著者の上橋菜穂子さんは、「守人シリーズ」の完結編ともいえる新作をだされたばかりです。ですが、今回は別の本を紹介しします。

もちろん、新作もとってもおもしろくておすすめ！！おもしろいと言ってしまうことがもったいないくらいです。私は、この新作がでると知ってからはもうわくわく、本が届けばそれぞれ、待望の3冊でした。そうなんです。新作「天と地の守人」は 1部～3部とドド～と3冊も出されたんです。長く待った読者を裏切るような結果はありません。きつみなさんも楽しめるはず・・・

私は、著者のように読者に美しい風景や言葉を伝える作品が大好きです。ですから、今紹介するならこの装丁のように桜満開の風景がとても美しいこの1冊です。

あらすじ

この本は、一匹の狐と一人の少女が必死に生きる物語です。もう少し説明するなら、呪者の使い魔である靈狐<野火>と呪者に母を殺され自身も隠れた才能を持つ少女<小夜>が主人公で、互いに敵同士ではあっても、幼い頃に<野火>の命を救った<小夜>という出逢いでふたりの心は強く結び付いています。言葉では説明できないものがふたりの心を動かしていきます。

どちらにも自分に揺るぎない強い心があり、そんな心がまわりを動かしてしまうのだろうと思います。「まっすぐ一心に思いを貫く」それに私は心がぎゅっと切くなります。「まっすぐ一心に」そんな風に自身を見失わずにできたならと思います。<思い><意志><意思>さまざまあるけれど、これは多分この先を考える時に私たちが思うこと。私達の暮らしにはたくさんの刺激や影響を与えるものがたくさんあります。そんな中で生きていくと、心の大切なものを育てていだけでも大変です。でも、何かあった時に自分自身だけではなく家族や友達、恋人・・・誰かを支えたり誰かに支えられたり、互いに成長できたらいいなと感じます。狐と人間では決して住む世界が違うのにそれを越えたく<野火>やく<小夜>に私は憧れに近い思いを持ってしまいます。

4月は、いろんな別れや出会いの季節です。そんなすこし寂しい時、弱った心をほんの少しあたたく、強くさせてくれそうな物語です。

もちろんそうでなくても、おすすめします。美しい風景を物語から想像するのも素敵ですよ。

ぜひ、一度手にとってみてください。あわせて「守り人シリーズ」もお楽しみください。

「精霊の守り人」「闇の守り人」「夢の守り人」「虚空の旅人」「神の守り人 来訪編」「神の守り人 帰還編」「天と地の守り人第1部～3部」



(大野 恵子)

☆☆

### 第77回読書会

平成19年3月18日(日)  
午後2時～ 参加者3名

## 『西の魔女が死んだ』

(小学館)  
梨木 香歩 著



主人公の「まい」は、真面目さとその個性のゆえに人間関係に煮詰まってしまい、学校に行けなくなった女の子。彼女は両親と離れ、田舎のおばあちゃんの家でひと夏を過ごすことになりました。英国出身のおばあちゃんは、なんと「魔女」。まいも、魔女になるための修行をすることに。でもこの修行とは、規則正しい生活をして、自分で考え自分で決めるやりとげるといふものだったのです。おばあちゃんとの暮らしの中で、まいは次第に傷ついた心を癒し、あるべき自分自身の姿を取り戻していきます。

### ★ ★ 参加者の感想から ★ ★

- ◆とても読みやすく、あっという間に読めたが、物語の中に大切なことがいっぱい詰まっている。
- ◆おじいちゃんの前にはギンリョウソウを供えるのが変わっている。石や鉢物が好きだったとあるから、イメージにはあっていると思える。
- ◆今の時代ならともかく、おばあちゃん時代に国際結婚をしたのはさぞかし苦労があったことだろう。
- ◆ゲンジさんは、まいの視点からはまるで悪者のように描かれるが、普通のぶっきらぼうな田舎のオジサンなのだろう。まいの周囲にいないタイプで、おばあちゃんとは違いすぎたので、よい印象を抱けなかったのだと思う。最後には誤解が解けたようでよかった。
- ◆魔女の修行といってもオカルトめいたことではなく、きちんとした生活態度を身につけることからはじまる、というところに感心。
- ◆タイトルを見たときはホウキで空を飛んだり、呪文を唱えて魔法を使ったりするような魔女の話かと思った。特別な力があるというより、先人の叡智を受け継ぎ、人として正しい生き方を求めるのが現代の魔女なのだろう。
- ◆家のつくりや庭の様子、いろいろな植物などにとことなく英国の薫りを感じた。著者が英国の児童文学者に師事していたことを知り、納得させられるものがあつた。

◆ターシャ・テューダーの暮らしぶりを思わせるような、こういう縁に囲まれた自然の中の生活に憧れる。

◆「がばいばあちゃん」みたいなおばあちゃんもいけれど、こういう夢のあるおばあちゃんも好きだ。

◆今の子ども達にも、自然とのかかわりの中で生きることを体験する機会がもっとあればいいと思う。

◆常識は、時代とともに変わるもの。以前のパパは「人は死んだらそれまでだ」と言ったが、今になって聞いたら「そういう考え方は」最近ではあんまり流行っていない」と言った、というエピソードを読んでそう感じた。

◆まいが学校に行かなくなった理由には共感できる。女子特有のつきあいに反発していた頃が自分にもあつた。

◆友達は数が多ければいいというわけではない。一人でもいいから、お互い尊敬できるような本当の友達がいれば方がいい。

★ ★ ★ ★ ★

さて、次回の読書会は、

三崎 亜記 作

### 『となり町戦争』

4月15日(日) 午後2時～

本は、図書館カウンターで貸し出ししています。となたでも気軽に参加できますので、どうぞおいでください。読書の幅が広がりますよ。